



市民病院

甚目寺総合福祉会館西隣りに  
甚目寺庁舎の東側

7月12日に改選後、2回目となる市民病院建設調査特別委員会が開催され、執行部より建設候補地や今後のスケジュールについて、説明がありました。9月14日の本会議では、22年度のおま市病院事業会計の決算審議がされ、厚生委員会にも付託。賛成多数で最終日に認定しました。ここでは、いくつかの質疑を取り上げ、内容を要約してお伝えします。

救急車両や一般利用者の交通の便  
県道給父・西枇杷島線を最大限活用

# 市民病院建設調査特別委員会にて

## 初

めに建設候補地の説明がありました。場所は、甚目寺庁舎の東側で、甚目寺総合福祉会館の西隣りです。救急車両や一般利用者のアクセス（交通の便）として、県道給父・西枇杷島線を最大限に活用でき、新病院の規模に必要な敷地面積（約1万6000㎡）を一団の土地として確保できるのが主な選定理由です。

現時点は事前調整であり、今後、地権者への説明会や県の開発許可など調整を行った上で、正式に認められます。「地主への理解の状況はどうですか」との問に執行部から「地権者の理解が得られるよう進めていきたい」とのことでした。

## 次

に、今後のスケジュールの説明があります



市民病院会計窓口

た。7月に地権者への説明会を開催し、用地交渉に入ります。基本設計業務は、参加者から提出された提案書（プロポーザル）により行い、25年度には建設工事に着手し、27年度開院の目標です。

当初構想案では、26年度開院の計画でしたが、用地関連手続きなどにより、27年度開院を目指しています。

「液状化の問題で病院機能が喪失する心配がある。地盤の調査など、液状化に耐え得る病院を」との間に「60億円の経費には、免震の部分や、地盤の強化も入っている。また、建てようとしている隣には、総合福祉会館があり、そちらと連携を組むこともできるので」との回答でした。

今後は、県への開発許可などスケジュールに沿って、特別委員会としては、建設候補地、スケ

「事前に病院システムに、どういう構想で、これだけやれば赤字にならないよというものをプロポーザルする前に、お願いでいいか」との間に「事前にコンサルタント業務を発注している。新病院の経営スタイル、医療機器の配備など、黒字になるような経営方法をお願いしている」との回答でした。

## 未処理欠損金が1億8000万円あるが

ジュールの報告を受けた形で、委員会を閉会しました。

**問** 今回の当期未処理欠損金として、1億8000万円ほどあります。これまでの累積の赤字と負担金などを考えると、毎回毎回累積が広がっていきます。このまま病院を建築されるのは、いかがなものですか。

**市民病院事務局長** 22年度の病院事業決算には、不良債務は発生していません。

貸借対照表に記載される欠損金とは、現在までの単年度で、損益計算書上、発生した欠損金で、それが累積したものが累積の欠損金です。毎年、損益計算書に計上される



診察待ちの人々

減価償却費は、現金の支出を伴わない費用として、その部分が病院の内部留保の資金となり、現金支出を伴わない費用として計上されます。減価償却累計額以下の累積欠損金であれば、病院経営上余り問題はありませ

ん。

表面上は赤字でも、資金収支上は黒字になっている自治体病院は数多く存在しており、流動負債が流動資産を上回った場合は資金ショートを起こ

こす不良債務が発生させないことが、重要だと考えています。

**問** 刈谷市は、民間委託をしました。当市は財源ともなる大企業もないわけですし、市民負担はかなり増えてくると思いますが。

**市長** 全国的には、約25年に一度はほとんどの病院が建て替えています。あま市民病院は、もう40年以上経過しています。子孫に負担をかけないよう、今が最適な時期だと考えていますが、行政だけで運営ができない状況になっていきます。

建て替えるにあたり、27年度までにはしっかりと勉強し、次の段階の病院運営に対して、いかに負担がかからない方法を、今後も研究をして、国にも要望をしていく必要があると思います。